

慈眼

第22号

発行所
唐津市西十人町127 法蓮寺内
TEL 0955-72-2393
FAX 0955-74-4948
**日蓮宗佐賀
教化センター**
発行責任者
藤山英周

一唱えよう 広めよう お題目一

日蓮宗佐賀県宗務担当事務長
法撰寺住職 峰松 正法



昨年五月、日蓮宗佐賀県宗務所の宗務担当事務長という重要なお役目を拝命し、責務の重大なることに身の引き締まる思いで御座います。任期中、所長様始め宗務所役職のお上人様、並びに県内寺院のお上人様方のご指導ご支援、そして檀信徒の皆様方のご協力を頂きながら伝道担当事務長の梶井恵親上人と共に努めて行きたいと存じます。

扱、日蓮大聖人の誓願はお釈迦様の絶対唯一の御教えを見いだし、それをすべての人々に分け与えて苦しみから救い、真の平和な世を実現するところにありました。日蓮大聖人が活動された鎌倉時代は時代の転換期で世の中が乱れ、人々は争いに追

われ苦しみの日々を送っていました。その世相の中で「一切の人々を救うことができずにお釈迦様の最高の教えは何か」と永く厳しい勉強を積まれ、法華経こそが数ある教えの中で最高(唯一無二)の教えであると確信を持たれました。清澄に戻られた日蓮大聖人は建長五年四月二十八日、昇りくる旭日に向かって高らかにお題目をお唱えになり立教開宗をされたのです。

今年立教開宗の年より数えて七五二年になりますが、鎌倉時代と比べますと比較にならないほど文明も発達し物質的にも豊かな時代になっていますが、果たして人々はこの発達した文明の中で幸せになつたでしょうか。けつしてそうではないように思われます。すべての人々が同じであるとは思いませんが、日々の生活に追われ人間らしさを失い、他人のことを思いやる心がなくなりその結果、所謂自分のことしか考えようとしていない「ジコチュウ」の人が増加してきているのが現在の世の中です。又、一昔前までは考えられないような親が子を、子が親を殺める事件、最近では子供が子供を殺める痛ましい事件が起こっております。体が健康であっても心は病んでいる人々が多いのが今の世の中です。病気になるれば病院に行つて診察を受け病状にあった薬を調合してもらいそれを

飲むことによつて病気を治すわけですが、心の病を治すのはどうしたらよいのでしょうか。如来壽量品の中に「是の好き良薬を今此に在く」と説かれています。日蓮大聖人が私たちに伝えてくださったお題目です。私たちがお唱え致しますお題目は単に妙法蓮華経というお経の名前であるだけでなくお釈迦様の本意であると共に、修行の功德と悟りのすべてがこのお題目の中に含まれているのです。病気になるたとき薬を飲みますが、薬の名前は分かってもその中に含まれている種々の成分がどのように病気に効き治るのかは知りませんその薬を飲むことによつて病気が治ると同じように、お題目の中にある深い教えを理解できなくても、お題目を心から信じ唱えることによつて自然とお題目のご利益が頂けますよ、と日蓮大聖人はお諭しになつています。

この有り難いお題目を唱えることが出来ることに感謝し、それと共に心から信じ、唱え、日々の生活の中にお題目の教えを生かして行かなければなりません。日蓮大聖人は諫暁八幡抄に「日蓮は去る建長五年四月二十八日より今弘安三年十二月にいたるまで二十八年が間、又他事無し、只妙法蓮華経の七字五字を日本国は一切衆生の口に入れんとはげむ計りなり。此即ち母の赤子の口に乳を入れんとはげむ慈悲なり」と仰せになつております。家庭に於いては親から子をして孫へと、また、外に向けてはまだお題目を唱えていない人々にお題目を伝えていくことが私たちの大事なもう一つの役目であり日蓮大聖人への御報恩ではないでしょうか。

日蓮宗佐賀県護法大会

テーマ：「伝える」～新たなる第一歩

日時 平成16年11月28日(日)
場所 武雄市文化会館大ホール
問い合わせ 佐賀県宗務所 塩田町学成院内 TEL0954-66-2285



【特集】 《六老僧》

日蓮聖人の直弟子である六人のお上人様の生涯をたどります。今回は、白蓮阿闍梨日興上人です。

白蓮阿闍梨日興上人

日興上人は、甲斐国（現在の山梨県）
鯉沢に寛元四年（一二四六）三月八日、
お生まれになりました。幼くして父を失
いました。母が駿河国（現在の静岡県）
河合の領主・由比氏の娘であったため、
幼少時代を由比氏の元で過ごしました。

七歳の時、駿河岩本実相寺に入門し、
十二歳の時にお寺に訪れた日蓮大聖人と
お弟子の日朗上人の学識の高さ、人格の
素晴らしさに惹かれ、入門の志を起さ
れたと伝えられています。日蓮大聖人に
弟子入りなされた時期には諸説があり定
かではありませんが、文永二（一二六五）
年の日興上人が十九歳前後の頃であつた
ろうと考えられています。この時、大聖
人から「伯耆坊日興」と名付けられまし
た。大聖人が佐渡に流罪に処された時も
それに随行し、現地での布教に尽力なさ
っています。

日蓮大聖人は弘安五（一二八二）年に
現在の東京・池上本門寺にて御入滅なさ
います。その前に日昭、日朗、日興、
日向、日頂、日持の六人の高弟達を本弟

子に定め、後事をこの六老僧に託されま
す。「御遺物分配」では「御足袋・烏帽子・
小袖」を配分されています。日興上人
は「白蓮阿闍梨日興」と号し、六老僧の
第三に推されました。日蓮教団の基盤は、
この六老僧の集団指導体制を中心に築か
れていきます。六老僧達は、交替で日蓮



(日興上人開山の北山重須本門寺)

大聖人の墓所を守る輪番制度を取り決め
ます。これは各自がそれぞれの布教先で
弘通に励みつつ、交替で定められた期間、
身延山の聖人の墓所に仕えるというも
ので、教団の結束を固めるための具体的

な方法でした。

しかし、全国各地で布教活動を行なっ
ていた六老僧たちにとっては、短期間と
はいえ身延山常駐はかなり大変なこと
でした。そのため、大聖人の御入滅からわ
ずか三年目にはもつぱら地元の日興上人
が常住し、祖廟の給仕にあたられました。
さらに、この結束を破綻させる出来事が
起ります。身延山久遠寺を開基した波木
井実長の神社への参拝を、法華経信仰に
対する不純行為であり、絶対に容認でき
ないと日興上人が強く諫められたのです。

これがもとで波木井実長と日興上人は
たびたび意見の衝突を繰り返すようにな
りました。そしてついに日興上人は正応
元（一二八八）年に弟子を引きつれ身延
山久遠寺を去ります。正応三（一二九〇）
年、現在の日蓮正宗の総本山である富士
大石寺、そして永仁六（一二九八）年、
現在日蓮宗の七つの大本山のひとつにか
ぞえられる重須本門寺を開かれました。
日興上人はこの本門寺を本門の戒壇の建
設運動の根本道場と定め、教育機関研究
所「重須談所」を開設し弟子の育成に挺
身され、正慶二（一三三三）年、八十八
歳で入寂されました。

日興上人の離山は日蓮教団の初めての
分派であり、日興上人の弟子達はのちに
富士門流（日興門流）と名乗ります。

技術本位 信用本位

佐賀の老舗

辻の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

花と葬儀 木下株式会社 平安閣冠婚葬祭互助会

OMEGA ALPHA SAAL 草苑 (SOU-EN)

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 (0952) 30-4040 FAX・30-4043

南佐賀草苑本庄 佐賀市本庄町大字本庄951 (0952) 25-1255 FAX・25-1088

このお言葉は日蓮大聖人五十六歳、建治三年（一二七七）九月十一日、身延より信者である四条金吾氏に出されたお手紙の一説で、四条氏よりたくさんのご供養を頂いたことに対するお礼状でもあり、お題目による救いを説かれた日蓮大聖人のお言葉の一つです。

二十一世紀を生きようとする我々人類に欠くことができないのは、慈悲みに生かされる心の豊かさではないでしょうか。我々の生きていく今日、科学技術は核兵器をはじめとする軍備の問題・ハイテク産業による情報工業化、さらには生命科学の分野における遺伝子研究・クローン生物の誕生など、想像をもつかない恐ろしいばかりの発展をみせています。

しかし、これらの科学技術を研究開発し、使用するのには人間の心にあると考えるとき、常に生命の倫理を第一に考えなければなりません。この世に生を受けているものはお互いに繋がりが合っている大切な「いのち」の尊厳を、慈しみの心で見つめる視点を失ったならば、人類その

人身はけがたし爪の土の上。人身は持ちがたし草の上の露。
 蔵の財よりも身の財すぐれたり。身の財より心の財第二なり。
 此御文を御覽あらんよりは心の財をつませ給べし。

崇峻天皇御書

ものを破滅へと導くことになりかねません。また、「人類は平和を願う」と口にし、「生命の大切さ」を叫びながら不幸な戦いを繰り返しています。現に今起っているイラクでの自爆テロなどは皆さんもご存知のはずです。そして、昨今では自らの命を絶つものが増加の一途をたどるばかりです。せつかくこの世にいたりたい有り難いこの命を、まるでテレビゲームのリセットボタンを押すように簡単に死を選び、安易に他人を傷つける者が激増しています。まさに心の豊かさが失われている証拠であります。

限りある私たちの尊い命。信仰を糧とする心の豊かさ。それを大切に思う生活を送ろうではありませんか。心の財の尊さを知ることのできる人生であれば、必ず身の財・蔵の財がそなわるはずです。

日蓮大聖人からいただいた大きな財・お題目に合掌し、お唱えする縁をたくさんいただけますよう、日々精進して参りましょう。

日蓮宗佐賀県教化センターでは読者の皆様よりご質問等を募集致しております。葉書に、ご質問の内容・住所・氏名・菩提寺等をお書きの上教化センターまでお送り下さい。お答え出来る限りお答え致します。

日蓮宗佐賀県ホームページ

www.nichiren-saga.jp

近日公開



手を合わせるころを大切に・・・

山本仏具

佐賀市呉服元町10-12 23-4308
 〒840-0824 ☎ (0952)

- ・寺院用具一式
- ・前卓
- ・銘金物
- ・宮
- ・機
- ・登高座
- ・修復
- ・須弥壇
- ・佛
- ・仏壇
- ・人天畫
- ・美術彫刻品
- ・仏
- ・櫃
- ・宗教繪画
- ・神祇用具
- ・環
- ・塗
- ・其の他
- ・仏像彫刻
- ・宿

平成16年度・創業82年目、仏壇・仏具・墓石の総合プラザ

光古賀仏壇店

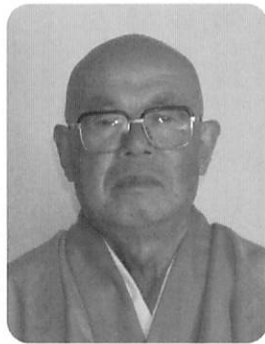
3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 〒840-0813 TEL(0952)23-5521
 佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952)23-5564

寺院紹介 (十九)

《 瀧川山 妙常寺 》

佐賀市兵庫町大字瀧一八九七



眞木 弁 決 住 職

佐賀駅より市営バス徳永・久保泉方面
行に乗車し、「妙常寺前」バス停で下車、
徒歩三分の所にあります。

【本 尊】

護国大本尊

元寇の役の時、宗祖日蓮大聖人が身延
山中で記した大日本護国護国護大茶羅で、
尊(釈迦如来・多宝如来)四土(上行菩
薩・無辺行菩薩・浄行菩薩・安立行菩薩)・
文殊普賢四天王を記し、二明(愛染明王・
不動明王)を大聖人が梵字で表示された
大曼茶羅の様式です。

【由 緒】

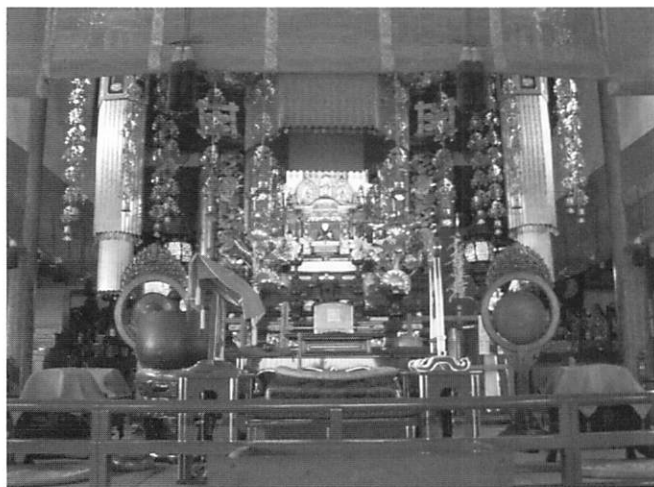
本照寺との合併

現在では妙常寺に合併されていますが、
その隣に元中年間(一三八〇年頃)相良



妙常寺全景

肥後守の発願によって建立された瀧川山
本照寺がありました。開基は肥後守の嫡
男日乘上人であります。瀧川城主空閑参
河守も檀家であったのです。内室日恩大
姉(龍造寺家兼の息女で直茂の養女・天
文五年逝去)の墓もあり、位牌も安置さ
れています。このような関係で御茶湯田
の一反田畝の外に、田地一町三七七畝の
寺領も得ていました。その後、隆信の代
に当寺の住持十四世日秀上人へ祈禱を命
じられ、また直茂夫婦より関ヶ原合戦の
戦勝祈念、勝茂より大阪の陣の戦勝祈禱
の命があつて寺領田地四町歩を得ていま
す。その当時、龍造寺家、鍋島家の信仰
が厚かつたのですが次第に寺運衰えて隣
寺妙常寺に合併されました。



妙常寺御宝前

造寺家・鍋島家の尊信も厚かつたのです。
約百有余年程前、寺家究調の際に、寺領
没収の災難に会い、その当時住持であり
ました順法院上人が納富治部大夫の兄で
あつた事から屋敷若干を下附されたので
す。当時は旧藩時代、日蓮宗一二ヶ寺の
一つとして色衣聖人の寺格で優遇されま
したが、幕末の廃佛毀釈の大変革により
退廃しました。
しかし、当山中興二十七日孝上人(大
正九年八月遷化)続いて三十世智常院日
豊上人の不折の精進による布教伝導の結
果遂に現本堂の大改築が昭和七年に成就
圓成されました。
時は流れ流れて、静かであつた田園の
一角も都市化が進み、変貌の一途をたど
っているのが今日この頃です。



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拝む心で尊い品を

梅谷佛具店

TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)
7番出入口・博多座裏
支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4
-0373

フリーダイヤル 0120-39-0456

TEL 092-806-7499

総合葬祭 有限会社 黄 城
葬祭会館 こう 光 うん かく 閣

小城郡三日月町大字久米2134-1

代表 (0952)-73-3938

TEL (0952)-73-2020